

愛教大の「いま」にであえる情報誌



国立大学法人  
愛知教育大学  
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

AUE Letter  
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

# あえる

VOL. 7

2023  
Winter

## 特集 教育の情報化について ～ICT活用の推進～



子どもの声が  
聞こえるキャンパス  
地域から頼られる大学

# 教育の情報化について～ICT活用の推進～



ロゴマーク

2022年9月に教育交流館2階の「ALルーム(アクティブラーニングルーム)」の新名称が「こらぼ」に決定し、ロゴマーク、キャラクターのデザインも発表されました。

ALルームは学生や大学教員、および現職教員の授業におけるICT活用を促進するために2020年度に整備されました。2022年4月に教職キャリアセンターの「ICT活用等普及推進統括部門」が新設され、本部門の活動拠点として名称を変更し、学生・教職員の認知度を高め、より親しんで利用していただくために学内公募でロゴマークとキャラクターデザインを決定しました。



キャラクター「こらぼ」



## 情報活用能力とICT活用指導力の向上を目指して

GIGAスクール構想に基づく1人1台端末とクラウド環境の日常的な活用により、多くの学校で児童生徒一人一人の個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な充実が図られています。その一方で、教育におけるICT活用に否定的な意見を持つ教育関係者も少なくありません。「不易流行」という言葉がありますが、予測不能な社会の変化に対応するためには、教育の世界においてもその『本質』を維持しつつ、『変化』を積極的に取り入れていくことも重要で、教員養成の段階においてもその改革を一層推進しなければなりません。

このため、本年もデジタル教科書・教材、授業支援ソフトなど教育の情報化に関する体験型研修会等を開催することにより、教職員および学生の情報活用能力とICT活用指導力の向上に貢献したいと考えています。

理事(総務・財務担当)・副学長・事務局長 **新津 勝二**

## 産学官連携で親子プログラミング教室を開催

本学と連携協定を締結している丸善雄松堂株式会社およびテクノホライズン株式会社エルモカンパニーが連携して、T-FACE(豊田市駅西口)において「親子プログラミング教室」を今年度3回開催しました。産学官連携事業としてはじめて企画されたものですが、小学校でプログラミング教育が必修化されて3年目でもあり「設取り力」の重要性和親子で一緒にプログラミング教育を楽しむことの有効性が実証されました。



## 指導者用・学習者用デジタル教科書研修会

音楽教育講座の新山王政和教授により、小学校2年生のデジタル教科書を使った授業実践が行われました。自動演奏機能には教員がピアノから離れて指導できる利点があることや、音楽が苦手で鍵盤や楽譜が読めない児童生徒にとってはデジタルツールを活用することで臨機応変に指導できるとの説明がありました。また、メトロノーム機能を活用するとテンポによって雰囲気が変わる体験や譜面にペンツールで色分けをして視覚的に旋律を指導する方法についての紹介もあり、「デジタル教科書は目の前で音が出てくるのでとても便利である上、メタ認知という客観的自分を見ることが大事になる音楽においてはとても有効的です」との話がありました。



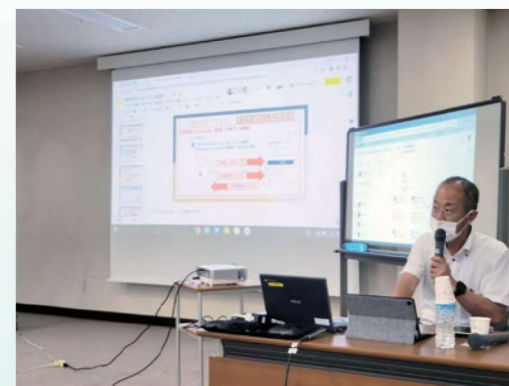
## Google Workspace for Education 体験型勉強会

教職キャリアセンターICT活用等普及推進統括部門GIGAスクール研究会主催「Google workspace for education 体験型勉強会」が今年度2回開催されました。

GIGAスクール構想の前倒しによって整備された1人1台端末の環境下において、全国の学校で先進的な授業実践が行われていますが、そのなかでも、教育機関に対して無料で公開されている授業支援ソフト「Google Workspace for Education」は国内で約6割の



公立小中学校で活用されています。2回目の勉強会では、実際に学校の授業などで授業支援ソフトを活用している先生方を講師に迎えて実践例を学ぶとともに、参加者自らが体験することにより「新たな学び」「新たな学校のかたち」について考える機会となりました。



## 附属学校の授業を全国へ配信 附属名古屋中学校にスタジオ教室を整備

附属学校における情報化を推進するため、学長裁量経費を使って附属名古屋中学校にスタジオ教室を整備しました。全国に双方向で配信することができるため、オンライン授業や教育実習をはじめ、教育研究発表会における授業公開や研修における活用、教職大学院の授業実践など無限の可能性を秘めています。教員が機器を駆使して調整した映像と音声インターネットで配信され、生徒は大画面ディスプレイや端末間でアイデアを共有し、教員が与えるヒントで表情を変えて、仲間と議論しながら解を探します。同時に、たくさんの教育関係者がオンライン参加することが可能になりました。



## 大阪教育大学と「ICT活用支援活動」に関する意見交換会を開催

本学教職キャリアセンターICT活用等普及推進統括部門の「こらぼ」を担当する教職員および学生ICT支援員と、大阪教育大学情報基盤センターの「ICT教育支援ルーム」を運営する担当教員と所属学生が、大学におけるICT活用支援組織の運営と課題について意見交換を行いました。

両大学におけるICT活用支援活動の情報を共有しつつ、連携を継続してICT活用の充実を図ることが期待されています。



## 理事紹介

理事(連携・附属学校担当)・副学長  
杉浦 慶一郎 理事

(主な略歴)

愛知県教育委員会高等学校教育課長  
愛知県総合教育センター所長  
愛知県立高等学校長(知立東高等学校、岡崎高等学校)

### テーマ 附属学校におけるICT教育と大学との連携

学校教育においてICTを活用する目的には、児童生徒の情報活用能力を育てることとともに教科の学習目標を達成することがあるといわれています。そして、教師と児童生徒のどちらもICTを活用することが求められています。

本学附属学校においては、1人1台端末(Chromebook、iPad)の導入も踏まえて、これまでの各学校で進めてきた授業研究を、児童生徒と教員がともにICT機器を活用することによりさらに発展させるよう、精力的に実践が行われています。また、各学校の授業の様子などを外部に発信できるようにスタジオ設備の導入も行い、附属学校における研究の成果を全国に発信しています。大学との連携においては、これまでも授業研究などにおいて大学の先生方の協力を得て取り組んできましたが、ICT機器の活用が連携のさらなる強化につながっています。

今後とも附属学校におけるICT教育の研究・活用を進め、社会の変化に対応できる児童生徒の育成が行われるよう配慮していきたいと考えています。

デジタル時代に生きる  
児童生徒を育てます。



## 研究室訪問

教職キャリアセンター  
中池 竜一 准教授

研究分野：教育学、認知科学、  
教育情報システム、  
プログラミング教育

### 研究テーマ 子どもたちの創造性を育むプログラミング教育

私が子どもたちにプログラミングを教える時は、「失敗を楽しもう」と声かけしています。

小学校プログラミング教育におけるねらいの一つはプログラミング的思考の習得です。一般にこれは論理的思考の一種であると説明されますが、実際にプログラミングに挑戦する人々を観察すると、論理的思考という言葉のスマートなイメージとは若干ずれていることに気づきます。

プログラミングでは、目標動作を実現するまでに、思い通りに動かないという失敗(エラー)を何回も乗り越えて泥臭い試行錯誤を繰り返さなくてはなりません。言葉で説明すると辛そうですが、でも実際にこれを楽しんでいるのが人間の不思議なところ。途中で困難であるほど成功の喜びは大きくなりますし、失敗を繰り返しながら試行錯誤しているうちに、その過程(プロセス)そのものが楽しくなってきます。失敗とはすなわち予想外の発見です。驚きに満ちた試行錯誤は知的好奇心を十分に満たしてくれるでしょう。

学校や日常生活において、失敗することを前提に自由に試行錯誤ができる場面はどれほどあるのでしょうか。プログラミングを通してたくさんの失敗を経験し、試行錯誤することの楽しさを知ってもらうことで、急激に変わり行くこれからの社会をたくましく生き抜く力が育つに違いありません。

プログラミングを体験して、  
失敗を楽しみましょう。



## 愛教大生ピックアップ!

### 第71回三十三間堂大的全国大会 女子優勝

特別支援学校教員養成課程 4年 二村 亜月さん

「三十三間堂の通し矢」の名で知られる三十三間堂大的全国大会(さんじゅうさんげんどうおおまとぜんこくたいかい)は、京都にある三十三間堂にて行われる弓の伝統競技で毎年成人の日に近い時期に開催されますが、2020年度の第71回はコロナ禍で中止となり、翌年第72回大会と合同の開催となり、二村さんは成人女子の部で見事優勝となりました。



以下、二村さんのコメントです。

高校に入学して袴姿で弓を引く姿に憧れて始めた弓道。2020年度の第70回大会は観客として観戦していて、まさか自分が表彰台に立つとは全く想像していなかったので、優勝が決まった瞬間も実感がわきませんでした。

この優勝は、私ひとりの力ではなく洋弓部の練習場をお借りしたり、後輩が必要な道具を手作りしてくれたり、この大会のための練習環境を作ってくれた仲間たちの協力があったからだと思います。

私は将来教員になって、子どもたちに自分が弓道を通して学んだ「道具を大切に扱うこと」や「ブレない精神力や集中力を身に付けること」を伝えていきたいと思っています。

また、私自身も弓道で学んだ精神力で、教育現場でのさまざまな問題を乗り越えていきます。

長い歴史あるこの大会で優勝できたことは一生の思い出になりました。



### 「第34回全国高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)」でNHK賞(全国2位)受賞

#### ■ ダンス部 喜びのコメント

「全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)」は全国各地の高校・大学のダンス部または、有志グループ等がそれぞれの思いやテーマをダンスを通して全身で表現する創作ダンスの全国大会としては、唯一の大会です。本学は今回が10回目の出場となり、全国2位に相当するNHK賞を受賞しました。歴代最高賞となります。

受賞作品のタイトルは「Animal Farm」—G.オーウェルが語る現代への警鐘—。独裁者による支配が繰り返される歴史を表現し、現代への警鐘を鳴らすとともにその歴史を止めるために自分たちが能動的に動くべきだという強いメッセージを込めました。

メンバー全員が作品に対して強い思いを持ち、作品をより良くしようと取り組めたことはもちろんのこと、どんな時も全力で指導してくださった先生、多くの方々の支えや応援のおかげだと心から感謝しています。今後もこの賞に恥じぬように活動に取り組んでいきたいと思っております。



### 全日本学生フルコンタクト空手道選手権大会 優勝

学校教員養成課程 義務教育専攻図画工作・美術専修 2年 岡田 葵さん

2022年11月20日(日)東京都で第1回全日本学生フルコンタクト空手道選手権大会が開催され、岡田葵さんが1部女子軽量級で優勝しました。フルコンタクト空手は、空手の形式の一つで、直接打撃制(フルコンタクト)の組手競技や直接打撃制の稽古体系を採用しており、今大会はフルコンタクト空手界では初となる、学生日本一を決める「インカレ」として開催したもの。また弟の凌平さんも今大会と同日・同会場で行われた第16回JKJO全日本ジュニア空手道選手権大会(高校生以下のジュニア日本一を決める大会)で優勝しました。以下岡田さんのコメントです。



左が岡田さん

大学の授業と並行して、空いた時間で対戦相手を研究したり、体力向上のため打ち込みをしたり、弟にミットを持ってもらい自宅でも稽古に励みました。開会式で選手宣誓を務めるため、優勝へのプレッシャーも相当だったので優勝できて本当にうれしいです。

所属している道場「桜塾」では指導員を務めており、子どもたちに空手を教えています。

指導している子どもたちの目標を一緒にかなえることにやりがいを感じました。子どもに教えることが好きだと気付き、教員志望になりました。フルコンタクト空手を通じて鍛えた精神力を生かし、将来子どもたちにも精神的なサポートをしていきたいです。



#

# 愛教大 ニュース NEWS

2022年8月~12月

愛教ちゃん エディ

## 京都市立西京高校2年生が多文化共生を学びに来学

京都市立西京高等学校2年生がフィールドワークの一環で多文化共生を学びに来学しました。始めに外国人児童生徒支援リソースルームの活動紹介とリソースルームに登録しているボランティア学生4人から体験談の発表がありました。

その後本学の留学生4人も参加して、西京高校の生徒が企画したグループワークや「日本文化を体験する」というテーマで割り箸を使った的的づくりなどを行いました。

「地域から頼られる大学」を目指す本学として、外国人児童生徒支援リソースルームの活動を通じた学びなどが県外の高校生たちに興味を持ってもらえる良い機会となりました。



## 安城市「ケンサチeフェス」で本学学生が、 「Vtuber体験」を企画・運営

安城市アンフォーレで開催された安城市制施行70周年記念「ケンサチeフェス」において、本学教育ガバナンスコースを中心とする学生たちが「Vtuber体験」を企画・運営しました。

学生たちは、安城市が組織している「ケンサチeフェス実行委員会」に参加し、企画を提案し、主体的に市とさまざまなやり取りを行い、準備を進めてきました。

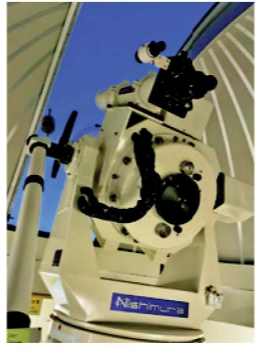
当日は80人を超える子どもたちが、人気Vtuberを真似てゲーム実況を行う、コスプレをして参加するなど、大盛況でした。このように教育ガバナンスコースでは、ICTを活用した街の活性化に向けて、産学官の連携に取り組んでいます。



## 「目指せ!宇宙博士—宇宙体感・体験プロジェクト」

愛知教育大学未来共創プラン「子どもキャンパスプロジェクト」の取り組みとして、「目指せ宇宙博士!宇宙体感・体験プロジェクト」と題した本学学生による宇宙クイズ大会、3D宇宙シアターおよび本学の60cm望遠鏡(写真)を用いた星空観望会を実施しました。

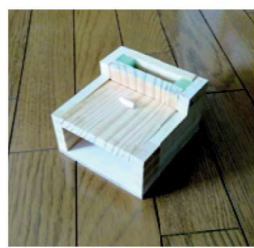
自然科学棟の屋上に設置された天文台に上がり、60cm望遠鏡や小型屈折望遠鏡を覗き、恒星や月面のクレーターを観測した子どもたちは興味津々。またこの日は近隣で花火大会もあり、参加者たちは屋上から星空と花火の両方を見ることができ、贅沢な時間を堪能しました。



## 「ひろしま木育フェス2022」に初参加

技術教育講座 磯部研究室の学部生らが、木育普及委員会主催の「ひろしま木育フェス~講演会&発表会~」にオンラインで参加しました。磯部征尊准教授(技術教育講座)が木育推進委員会のメンバーとして活動していたことがきっかけで今回本学の学生が初めて参加し、「ものづくりを通じた木育体験」として、木材を主材料として開発したスピーカー(写真左)の発表を行いました。

「木育」とは、木材と森林に触れることを通して豊かな感性を育むこと、さらに木材や森林の置かれている現状、木材の特徴や利用の意義などを多角的な視点から正しく知ることを通して、木材・森林を生かすことのできる人を育てる教育活動です。



## 愛知県環境イベント「Let'sエコアクション in AICHI」に出展

愛知県が主催する環境イベント「Let's エコアクション in AICHI~みんなで楽しく!エコアクション~」が3年ぶりに開催され、愛知県で環境配慮行動を啓発する企業、自治体、NPO、学校などが展示を行ったり、ワークショップを実施しました。

本学からは、パートナーシップ学生団体「SAGA(サーガ)」が「楽しみながらSDGs・生物多様性を学ぼう!」というワークショップブースを出展しました。大村秀章愛知県知事、花田勝重東海市長や地元アイドルOS☆Uのメンバーも本学のブースを訪れ、教材の体験を行っていただきました。



## 外国人留学生らが柿狩りを初体験

外国人留学生9人と海外からの共同研究者3人が大学近くの農園で初めての柿狩りを体験しました。この体験会は、刈谷市国際交流協会親善ボランティア(KIFAV)文化交流グループが主催したもので、参加者は柿狩りやレクリエーション交流を通してボランティアの方々と一緒に楽しい時間を過ごしました。



## 14年ぶりの快挙!! 吹奏楽団が全国大会に出場!

本学吹奏楽団は、今年度8月に行われた「愛知県吹奏楽コンクール」において金賞、県教育委員会賞および朝日新聞社賞、9月に行われた「第77回東海吹奏楽コンクール」において金賞を受賞し、10月に北九州ソレイユホールにて行われた全国大会「第70回全日本吹奏楽コンクール」への出場を果たしました。14年ぶりの出場となり、全国から集結した13団体のうち、当団は銅賞を受賞しました。

2023年3月4日(土)には安城市市民会館サルビアホールにて、定期演奏会が行われます。



## 保健体育科ダンス公演 「踊人(おどんぢゅ)の宴」を開催

毎年恒例の保健体育科総勢200人で開催するダンス公演。今年度は各学年作品、保健体育講座成瀬麻美准教授のゼミ生作品、「全国高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)」でNHK賞(全国2位)を受賞したダンス部の作品(5ページ参照)が披露され、大いに盛り上がりしました。



## 「科学・ものづくりフェスタ@愛教大」 3年ぶりの通常開催

科学・ものづくり教育推進センターが主催する科学実験やものづくりの楽しさを体験してもらう毎年恒例の大人気イベントです。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底のうえ、従来の規模に戻して開催しました。

イベントには、33ブースの出展があり、過去最多となる約1,300人の来場者でにぎわいました。



## 「ホームカミングデー・保護者懇談会」& 「集まれ!子どもキャンパス」同時開催

毎年の恒例イベント「保護者懇談会」と「ホームカミングデー」を同日開催し、さらに未来共創プランのプロジェクト「集まれ!子どもキャンパス」も開催され、キャンパス内は一日中ににぎわいました。

学びの交流会では元学長の松田正久氏が来学され講義を行ったり、クラブサークルの実演などさまざまなプログラムが開催されました。



## 医教連携フォーラム「医教連携によって開発した 食物アレルギー等緊急時対応プログラムの実践 —そなえる&ふせぐ 安心な学校づくり—」

藤田医科大学と共同研究を行っている「食物アレルギー」をテーマとし、アナフィラキシーショック症状への対応を行う上で必要な実技の習得、事例検討からの体制構築や情報共有の在り方などをディスカッションすることで、学校教育現場における緊急時の在り方などを考えるフォーラムが岡崎市図書館交流プラザらびらで開催されました。



# 「愛知教育大学未来基金」「愛知教育大学創基150周年記念事業」 へのご寄附のお願い



## 【創基150周年記念事業ロゴマーク】

ロゴのコンセプトは「伝統と共創」です。本学だけでなく附属学校や地域の教育の未来が華やかに開くよう、150の「0(ゼロ)」は花の輪をイメージし、本学の創基となる1873年から共に伝統を紡いできた師範学校・附属学校園・学芸大学の校章を円環状に並べました。校章は頂点から右回りに師範学校と学芸大学、左回りに附属学校園が古いものから順に並んでいます。同一校で校章や名称に変更があった場合にはひとまとめにして各創立年に合わせて並べました。また、「0(ゼロ)」の中心には、本学のシンボルマークの中心にもある「カキツバタ」を配置しました。

## 愛知教育大学創基150周年記念事業へのご寄附について

愛知教育大学は、令和5年(2023年)に創基150年を迎えるに当たり、令和5年(2023年)秋に愛知教育大学創基150周年記念事業を行います。

そのため、愛知教育大学未来基金の寄附メニューとして「愛知教育大学創基150周年記念事業へのご寄附」を設け、ご寄附は愛知教育大学創基150周年記念事業に活用して参ります。

つきましては、皆様方におかれましては、ぜひともこの趣旨にご理解・ご協力いただきますようお願いいたします。

### 概要

- **名称**：愛知教育大学創基150周年記念事業へのご寄附
- **募集期間**：令和4年(2022年)9月1日から令和6年(2024年)3月31日まで
- **募資金額**：一口1,000円(複数口のご寄附を歓迎します。)
- **実施事業**：記念式典の開催、附属学校の子どもたちによる記念音楽会の開催、記念植樹の実施、創基150周年記念パンフレットの作成、記念展覧会の開催ならびに修学や国際交流の推進に関する支援事業および教育研究環境に関する整備

詳しくは、未来基金のホームページをご覧ください。

<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/kikin/about.html>



愛知教育大学HP  
「未来基金」

## 愛知教育大学未来基金へのご寄附について

引き続き「教育研究基金」「AUE修学支援基金」へのご寄附も受け付けております。  
ご寄附の際はご希望の基金・事業をご選択ください。

## 寄附者の方へのお礼について

未来基金(愛知教育大学創基150周年記念事業へのご寄附を含む)へご寄附いただいた方には、未来基金ホームページ等の芳名録への掲載のほかに、金額に応じてさまざまなお礼をご用意しております。詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/kikin/after.html>

累計で10万円以上ご寄附いただいた方には、  
本学公式マスコットキャラクターの  
【愛教ちゃん】と【エディ】のぬいぐるみ  
2体1セットをプレゼント!



愛知教育大学HP  
「寄附者の方へのお礼について」



愛知教育大学広報誌「あえるAUE Letter」vol.7 (2023 Winter) 2023年2月発行



国立大学法人  
**愛知教育大学**  
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

編集・発行／愛知教育大学 総務・企画部 広報課 広報・渉外係  
E-mail/kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp  
<https://www.aichi-edu.ac.jp/>

